



アジアから見る日中 第05回



広告

インド人がヨーガを始めた——心の安定とは

2014年10月3日

須賀努 (文と写真)



ヘルシーなベジタリアンフード

前回「インド人が最近紅茶を飲み始めた」という題で書かせてもらった。「少し誇張が過ぎる」とのご指摘も頂いたが、最近のトレンドをご紹介します、という意味合いでご勘弁願いたい。そして今回もう1つ、性懲りもなく掴みネタで行きたい。「最近インド人がヨーガ始めたよ」、これも一般の日本人にはなかなか理解できないフレーズではなからうか。ヨーガは当然インドが発祥の地であり、その歴史も長いはず。

なのは何故？ 何の話？ (尚今回はインドのものをヨーガ、アメリカ発のものヨガと表示して区別している)

確かにヨーガはインドの発祥であり、かの地で長く行われてきており、その歴史は1000年の単位にも及ぶ。但し昔から一般のインド人が日常的に行っていたか、と言うと、それは違うようだ。インドの上位カーストであるバラモンがヨーガをやっていた、と言う話もない。ヨーガの発展段階の歴史も体系的に纏まっているとも聞いていない。むしろサドゥ『外道 (道を外れた者)』と呼ばれる修行者が行っていたとの話があり、インドの主流ではなかったことが伺われる。



宿舎のベランダから見る中庭

最近のヨガブームはアメリカ発。ダイエットヨガ、ホットヨガなど、エクササイズの一環としてヨーガの一部を切り取って、肥満を治したい、健康でいたいアメリカ人のニーズに合わせて発展した。日本や中国にも輸入されているが、これは本家インドのものではない。ヨーガはインドでは体操ではないし、ましてや痩せるためのものではない。

今年に入り、筆者はインド国内にあるヨーガ

初期費用が無料になりました!
プチ・ホームページサービス
ポートフォリオや趣味の教室、写真日記にも。

著者/須賀努 [プロフィール詳細]

アジアから見る日中/最近の10記事

-  [カンボジア/ボランティアではなくビジネスを](#)
2014/10/27
-  [インド人がヨーガを始めた——心の安定とは](#)
2014/10/03
-  [インド人が紅茶を飲み始めた——人間の欲望とは](#)
2014/09/13
-  [インドで最高の死に方を考える](#)
2014/09/01
-  [少女の言葉から日本人が忘れていたものを思い出す](#)
2014/08/12

インドで資本主義の本質を見る

学院に滞在してみた。ここは100年弱前、ヨーガを科学的に分析して、その効用を広めたインド人が建てた学院で、ヨーガの正統派の1つともくされている。学院内は木々に囲まれ、人々はゆったりと歩き、我々が思うインドの喧騒などは全くない、素晴らしい環境にある。そこではヨーガを学ぶために世界中から生徒が集まってきており、6週間コース、1年コースなどでみっちりヨーガの理論と実技を学ぶ。

同時に1週間滞在して、アユルバーダを行うことも可能である。そのプログラムにもヨーガが含まれており、筆者はアユルバーダのトリートメントとヨーガを組み合わせて、結果的にかなりの効果を得た。ただその効果のある部分は「1日中ボーっとしている」「ネットやPCを見ない」「静かな環境の中で散歩する」ことで得られたものであった可能性も高い。現代社会は、特に日本人や中国人は、「毎日何かをやっていないと不安で仕方がない」状況に追い込まれ、いや自分を追い込んで、日々を過ごしている気がしてならない。ヨーガの目的も究極的には「心の安定」を得ること、そしてそれが体の健康にも繋がる、のではないかとこの地に滞在していると思えてならない。



ヨーガルーム

ここには外国人に混ざって(?) インド人の姿もかなり見られた。アメリカやカナダに住むインド人がわざわざここまでやって来て、ヨーガに取り組んでいた。全くの初心者も多く、簡単な動作も上手く出来ない。「生まれて初めてヨーガをやったが難しい」との感想が聞かれ、外国人からは笑いが漏れた。アメリカなどでヨーガが流行っているが、「どうも本物とは思えず、ここに来た」らしい。そして初心者にもかかわらず「やはりヨーガの本質はインド人には理解できるがアメリカ人には難しいと思う」という結論に達したという。理由は「それが文化というもの」とのことだった。この地に滞在すれば、その感覚も理解できる。

またムンバイからやってきたインド人のオジサンが2人いた。何となく場違いな感じがしたので聞いてみると、何と「勤めているインド企業の福利厚生で1週間送られてきた」という。最近ではインド企業でもストレスが多く、心の病になる人も出てきているらしい。この2人もヨーガは初めて。「1週間何もしないと落ち着かないね」というのを聞いて、都市の一般インド人は我々とそうは変わらない、と感じる。

スチームバス

その2人と雑談していると、突然庭で大声がした。よく聞くと中国語だった。ヨーガの解釈について激論を交わしている。インドのオジサンは目を丸くして「何を喧嘩しているんだ、こんな所まで来て」と聞くので、「いや彼らは喧嘩しているのではなく、議論しているのだ」と説明すると、信じられない、という顔をした。確かにこの環境下で、周囲の迷惑も考えずに大声を出すのは如何にも見栄えが悪い。



2014/07/29

すべてのカテゴリー／最近の10記事



カンボジア/ボランティアではなくビジネスを
2014/10/27



産経新聞/風刺画のカ——独裁に抗うメッセージ
2014/10/27



孤高でニヒルなダンティズム——自由を骨の髄から渴望し、魂の奥底から叫ぶ
2014/10/23



「昆虫図鑑が世界の仕組みの全て」だった
2014/10/23



ブラジルの連帯経済 その1
2014/10/16



東北の旧市街地をめぐる旅 ②瀋陽
2014/10/10



ヘタクソな読み方とは?
2014/10/8



2つの「去中国化」(脱中国化)
2014/10/6



スーパーサンガ第4回結集IN東京
2014/10/6



インド人がヨーガを始めた——心の安定とは
2014/10/3



実はこの学院には中国人の団体が20名も来ていた。2週間コースで1500米ドルも支払っているという。一体どんな人たちが来ているのか聞いてみると「北京でヨーガスタジオをやっている」「広州で弁護士をしているが、その傍らヨーガを教えている」など、ヨーガインストラクターが殆どだった。わざわざここまで来た理由は「箔を付けるため」らしい。

彼らもヨーガを教えながら迷っているようだった。アメリカ留学中にヨーガを習って、中国で自分のスタジオを開いた、などという例が典型的だが、数年もやっていると「何のためにこのポーズをしているのか分からない」ということになるらしい。それでも中国でヨーガスタジオは大流行。ビジネスの為には、悩んでもいられない。そこで本場インドへやって来て、インド人の先生と写真を撮り、スタジオに飾って箔を付けることになる。更には自分の疑問をここでぶつけ、心の安定を図るらしい。勢い、通訳者と解釈について議論にもなり、高い授業料を払っているという思いからか、つい中国流の大声が出てしまう。



唯一ネットが繋がる図書館

この学院のマネージャーに5年前に会った時は「中国人はいい加減なので面倒で困る。あまり受け入れるつもりはない」とキッパリと話していたのだが、今回はその中国人が大挙して宿舎を占拠しているので驚いた。ある意味で中国人は「インド人には敵わない」と思っているところがあり、インドの原理原則主義にはビジネス上でかなり手を焼いている。それでもさすが中国人！ 粘り強い。この5年の間に一部の熱心な中国人生徒がちゃんと渡りをつけ、資本力に物を言わせ、きちんと入り込んでしまった。

初めてヨーガをやりに来たインド人たちが中国人の集団には驚きを隠せない。正直インド人もあまりやって来なかったヨーガをアメリカ人が始めた時は文句を言わなかったが、突如中国人が始めると面白くない、という感情が湧くのだろうか。いや、今やインドもヨーガの重要性に気が付き、様々な研究を進めており、国際的にも「ヨーガはインドのもの」という発信をしているらしい。それでも既に巨大ビジネス化してしまったヨガ、インドはヨーガを取り戻し、心の安定を図ることが出来るのだろうか？

Older post in same category

インド人が紅茶を飲み始めた——人間の欲望とは

Newer post in same category

カンボジア/ボランティアではなくビジネスを

🛒 売れるショッピングカート「MakeShop」の特徴

| | | | |
|--|---|--|---|
|  低コスト 長期契約割引 最大30%OFF |  業界No.1機能数 デザイン・販売・会員管理など 圧倒的高機能 |  集客力 提携人気サイトへ 商品を一括掲載 |  安心・安全 高性能サーバー セキュリティ対策 |
|  高い利益率 どれだけ売っても 手数料0円 |  スマホ対応 PC版を 自動で最適化 |  SEO対策 自動SEO設定 機能搭載 |  無料サポート 電話・メール・掲示板・ 各種セミナー |